

第 25 回寝屋川市食育推進会議 議事録

1 日時：平成 28 年 9 月 26 日（月）午後 2 時～3 時 50 分

2 場所：保健福祉センター 5 階 会議室

3 出席者

[委員]

内藤義彦（会長）、檜本浩二（副会長）、名取三和子、日下洋子、溝口透、沢井元男、古川恵子、安方元子、内藤義彦、梶田理、坪井美也子、北條幸子、藤尾幸男、ダニエル純子（順不同） 計 13 名

[関係機関]

産業振興室、環境総務課、高齢介護室、子育て支援課、保育課、施設給食課、学務課、教育指導課 計 9 名

[事務局]

健康推進室 7 名

4 傍聴人数 0 名

5 案件

- (1) 第 5 期食育推進会議委員の委嘱
- (2) 会長・副会長の選出及び委員の属する部会の決定について
- (3) 事業リストについて
- (4) 第 2 次寝屋川市食育推進計画の中間評価について
- (5) 今年度のスケジュールについて
- (6) その他

6 議事内容（要旨）

（事務局）

定刻となりました。ただいまから、第 25 回寝屋川市食育推進会議を始めさせていただきます。健康推進室の猪俣でございます。どうぞ、よろしく願いいたします。

会議を始める前に、皆様もご存じだと思いますが、この食育推進会議の方にすごく縁の深い本市のふるさと大使の豪栄道関が今場所優勝になりました。しかも、昨日で全勝優勝ということで、本当に嬉しい限りだと思っています。平成 23 年度の食育推進講座から毎年 1 回豪栄道関には参加をさせていただいている次第でございます。

今年も来年の3月に来ていただけるということで、来場所が綱取りかと言われていて、もしかしら来年の3月の時には、大阪場所前にそれこそ横綱になって来ているかも分からないという、すごくいい期待をもっていきたいと思います。豪栄道関に元気をもらって食育推進を進めていきたいと思っております。

それでは、会議の方を進めさせていただきます。本日、郡委員、五月女委員におかれましては、欠席と御連絡をいただいております。現在、委員様が15人中、13人出席になっております。寝屋川市食育推進会議条例第5条第2項により会議は成立していることを御報告いたします。それでは、食育推進会議の開催に先立ちまして、理事兼健康部長の市川より、御挨拶申し上げます。

(市川理事兼健康部長)

—挨拶—

(事務局)

それでは、これより、案件1「第5期食育推進会議委員の委嘱」を行います。配布しております資料1「寝屋川市食育推進会議委員名簿」の順番で、市川理事より委員のお名前を読み上げますので、お名前を読み上げられた委員様はその場でお立ちください。事務局より委嘱状をお渡しいたします。

(市川理事兼健康部長)

それでは、本日御出席の委員の皆様方から、この名簿順に読み上げをさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。名取三和子様、日下洋子様、溝口透様、沢井元男様、古川恵子様、安方元子様、内藤義彦様、榎田理様、檜本浩二様、坪井美也子様、北條幸子様、藤尾幸男様、ダニエル純子様。

以上でございます。どうぞ、これからもよろしく願いいたします。

(事務局)

委嘱状の交付を終えましたので、引き続き、次第に基づき進めさせていただきます。

では、案件2「会長・副会長の選出及び委員の属する部会の決定について」でございますが、議事を進行します会長・副会長が選任されるまでの間、健康部の市川理事の方で仮議長

を務めさせていただきます。御異議ありませんでしょうか。

【異議なしの声あり】

(事務局)

それでは、市川理事、議事進行をお願いいたします。

(市川理事兼健康部長)

委員長及び副委員長が選出されるまでの間、仮議長を務めさせていただきますので、どうぞ御協力賜りますよう、よろしく願い申し上げます。座らせていただきまして、進めさせていただきます。

それでは、会長・副会長の選任につきましては、寝屋川市食育推進会議条例第4条第1項の規定により、委員の互選により選任することとなっております。どなたか、御推薦いただけませんかでしょうか。

(檜本委員)

これまで、食育推進会議の会長として御尽力いただいております内藤委員に、引き続き会長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(市川理事兼健康部長)

内藤委員への推薦がございました。他に御推薦はございませんでしょうか。ないようであれば、内藤委員に引き続き会長をお願いしたいと存じます。よろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

(市川理事兼健康部長)

ありがとうございます。会長が決まりました。副会長につきましては、会長からの推薦をお願いしたいと存じます。内藤会長、副会長の推薦をよろしく願いいたします。

(内藤会長)

前回は会長を努めさせていただきましたが、食育推進会議において副会長として御尽力を賜りました榎本委員に、引き続き副会長をお願いしたいと思っております。

(市川理事兼健康部長)

ありがとうございます。会長から、副会長に、榎本委員との御推薦をいただきました。榎本委員よろしいでしょうか。

(榎本委員)

よろしく願いいたします。

(市川理事兼健康部長)

ありがとうございます。それでは、内藤会長より一言御挨拶をお願いしたいと存じます。

(内藤会長)

—挨拶—

(市川理事兼健康部長)

ありがとうございました。それでは、次に、榎本副会長より一言御挨拶をお願いしたいと存じます。

(榎本副会長)

—挨拶—

(市川理事兼健康部長)

ありがとうございました。会長、副会長が選任されましたので、これよりは、内藤会長、榎本副会長に議事の進行をお願いしたいと存じます。御協力ありがとうございました。では、会長、副会長お席の移動をよろしく願いいたします。

(内藤会長)

それでは、着座させていただきます。議事を進めさせていただきます。それでは、これ

から2年間食育推進会議、委員の皆様方と一緒にこの会議を盛り上げていきたいと思ひます。初対面の方も多ひと思ひますので、ここで皆様に簡単な自己紹介をお願いしたいと思ひます。委員名簿の順番でお願いしたいと思ひます。

(各委員)

—自己紹介—

(内藤会長)

—自己紹介—

それでは、さっそく議事の方に入っていきたいと思ひます。議事の次第がお手元にあると思ひます。これに沿って進めていきたいと思ひます。その前に事務局で配布資料の確認をお願いします。

(事務局)

健康推進室の伴と申します。それでは、配布資料の確認をさせていただきます。配布資料は、次第がA4の1枚。資料が1から4ありまして、資料1は、「寝屋川市食育推進会議委員委嘱名簿」、資料2は、「第2次寝屋川市食育推進計画【事業リスト】」、資料3は、「第2次寝屋川市食育推進計画の中間評価について」と「食と健康についてあなたにお尋ねします」というアンケート、「第2次寝屋川市食育推進計画目標値」がついております。資料4といたしまして、「寝屋川市食育推進体系図」が1枚。本日、机の上に置かせていただいております、「第2次寝屋川市食育推進計画」、「第2次寝屋川市食育推進計画資料編」、「第2次寝屋川市食育推進計画概要版」が3冊、食育の「クリアファイル」と「ランチョンマット」を置かせていただいておりますが、皆様お手元にありますでしょうか。

(内藤会長)

それでは、準備ができたということで会議を進めさせていただきます。次第1「第5期食育推進会議委員の委嘱」と次第2の「会長・副会長の選出」が終了いたしております。続きまして、次第2「委員の属する部会の決定」の前に、今回、新たに委嘱された委員が多いため、本会議の概要について、事務局より説明を求めます。

(事務局)

食育及び本会議の概要について御説明いたします。全ての市民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにするためには、「食」が重要となっております。しかし、近年、食生活をめぐる環境が大きく変化し、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、食の海外への依存、伝統的な食文化の危機、食の安全等、様々な問題が生じています。

このため、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる「食育」の推進が必要となりました。

国においては、平成17年7月に「食育基本法」を定め、平成18年3月に「食育推進基本計画」を策定し、大阪府においては、平成19年3月に「大阪府食育推進基本計画」が策定されました。

本市においても、平成19年10月に「寝屋川市食育推進会議条例」が施行され、条例に基づき本会議が設置されたところでございます。

本会議における審議の後、平成21年3月に「寝屋川市食育推進計画」(第1次計画)を策定し、市民一人一人が生涯を通じて健康で心豊かな生活を送ることができるよう、行政や関係団体・機関間のネットワーク化を図りつつ、食育に取り組んでまいりました。

第1次計画の計画期間最終年にあたる平成25年度に、第1次計画の評価を行うとともに、その結果や国及び大阪府の動向などを踏まえ、食育に関する具体的な取組を実行できる市民を増加させることを目的とした「第2次寝屋川市食育推進計画」を策定しました。

本計画の計画期間は、平成26年度から平成30年度までの5年間です。詳しくは、本日配布いたしました「第2次寝屋川市食育推進計画」等を、お時間があるとき御覧いただきますよう、お願いいたします。【資料4】の「寝屋川市食育推進体系図」を御覧ください。

寝屋川市では、「乳幼児期・学齢期部会、青年期・成人期部会、高齢期部会」の3つの年代に分かれて、食育推進委員、各年代に関わりのある関係機関、団体で会議を開催し、食育の実践や連携等を進めています。各部会で議論した内容等を食育推進関係機関(市の関係機関等)で他の部会との連携や実践へつなげたり、食育推進会議で全市的な取組につながるよう進めています。以上です。

(内藤会長)

はい。どうもありがとうございます。事務局から、これまでの「食育推進会議の概要」

と「寝屋川市の食育推進体系図」これはどう議論を進めていくかという大事な体系図ですが、説明がありました。

これより、食育推進会議委員の各委員の所属する部会を決めてまいりたいと思います。各委員の決め方なのですが、それぞれの所属団体の社会的役割や特色をふまえて、所属を決めさせていただきたいと思っております。例えば、固有名詞で申し訳ございませんが、名取委員は、寝屋川市老人クラブ連合会の代表でございますので、高齢期部会の方でお願いしたいと考えております。また、北條委員は、寝屋川市小・中学校の校長会の代表でございますので、乳幼児期・学齢期部会でお願いしたいと思っております。というような形で、各委員の所属部会について、事務局から所属案を考えていただき、本日提示してもらいたいと思っております。その案に基づいて、改めて決めていきたいと思っておりますので、それよろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

(内藤会長)

では、異議がないということで、事務局案をお願いしたいと思っております。

(事務局)

それでは、事務局から、各委員の所属部会案を提示させていただきます。

まず、乳幼児期・学齢期部会ですが、日下委員、溝口委員、北條委員、ダニエル委員。次に、青年期・成人期部会ですが、御欠席されておりますが、郡委員、沢井委員、古川委員、檜本委員、坪井委員、藤尾委員。最後に、高齢期部会ですが、御欠席されておりますが、五月女委員、名取委員、安方委員、榊田委員、でお願いしたいと考えています。以上が事務局案でございます。

(内藤会長)

ありがとうございました。事務局案の提示がありました。ただいまの提示案に対して、何か御意見等はございませんでしょうか。

(藤尾委員)

先ほど、青年期・成人期部会ということで呼ばれましたが、私は高齢期部会にいていただきたいという希望でございます。

(事務局)

各委員さんの割り振りにつきましては、所属している方の属性と参加する関係機関の数の合計の人数に基づいて決めさせていただきましたが、委員さんの御希望でありましたら、移っていただいても構いません。

(内藤会長)

壮年期から高齢期につなぐ役割もありますが、高齢期部会の方がよろしいでしょうか。

(藤尾委員)

できれば、高齢期部会の方が良いです。

(内藤会長)

事務局もよろしいでしょうか。

(事務局)

はい。結構でございます。

(内藤会長)

そこだけを修正お願いいたします。他に御意見ございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員の所属部会が決定しましたので、今後の部会運営について、このメンバーでお願いしたいと思います。具体的な運営については、事務局よりこれからの説明をお願いいたします。

(事務局)

各部会について、今後の運営についてございますが、次回の推進会議までの間、各部会において、現状の把握と課題について検討していただきたいと考えております。なお、これからの部会運営に伴い、各部会においては、部会長を選出していただき、部会の調整等は、事

事務局と進めさせていただきたいと考えております。部会長は、食育推進委員の皆様方の中より、選出をお願いいたします。

(内藤会長)

よろしいでしょうか。それでは、部会長について、各部会の特性を生かしていただくことを考慮して、私の方から、部会長を指名させていただきたいと思いまけど、それでよろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

(内藤会長)

では、事務局とも相談した上で、乳幼児期・学齢期部会長には、小・中学校校長会の北條委員によりしくお願いいたします。青年期・成人期部会長には、檜本委員によりしくお願いいたします。高齢期部会長には、安方委員をお願いしたいと思います。それで、よろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

(内藤委員)

それでは、北條委員、檜本委員、安方委員、どうぞよろしくお願いいたします。

次第2が終了いたしました。次に、次第3「事業リストについて」事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

資料2【事業リスト】につきましては、昨年度、第2次食育推進計画の取り組み状況の全体を把握し、更なる連携をもって食育の取組を行うことを目的に作成しました。その事業リストを、平成27年度の実績及び28年度の計画に更新をしたものでございます。昨年度からの引き続きの取組が大半となっておりますが、機構改革のため、取組担当課が変わったところもございます。また、新たに提出いただいたものもあります。以上です。

(内藤会長)

たくさんリストが載っていますが、簡単な説明でした。たくさんのことを行っている皆さん感じられていると思います。あらかじめ目を通していただいていると思いますが、このリストに関して、御質問・御意見等がありますでしょうか。

(藤尾委員)

食の海外への依存というのは大きな問題で、今日、臨時国会が開かれており、国会の中で、TPPが大きな問題と思っています。アメリカで食の安全、アメリカ食品の異物混合基準がありまして、例えばトマトジュースであつたらハエの卵10個100gあたり入っても大丈夫とアメリカの基準がある。TPPが緩くなったらアメリカ基準に基づいて入ってくる恐れがある。日本では、うじ虫1匹入っていたら大きな問題になる。これから国会で審議されてどうなるか分かりませんが、日本の受給率がどんどん減っていく問題など、今までの食育推進会議で論議されてきましたか。

(内藤会長)

今回のTPPの話題は、特に今まではなかったと思います。主旨はよく分かりまして、今まではそのようなことはなかったが、これからの食育を進めていく上で一つの脅威になる可能性はありますよね。そういう意味では今現在、健康的な食事、安全な食事を維持していくことが食育の一つの基本的な立場だと思っておりますので、それを脅かす可能性のあることに関しては、どう対応するかというのは一つの食育推進会議の課題であるかと思っております。色々な話題があり、優先順位をつけて市民の不安が強いようでありましたら、本当は食の安全という会議が必要なかもしれませんが、そういう中で議論していくべきだと思います。幅広く、市民が安全な食事、健康的な食事が得られるように行政と情報交換しながらやっていく。最近、難しい言葉で健康のリテラシー、みんなが知識、関心を高めていこうという話題が非常に大切だと思いますので、是非今後とも問題提起していただければと思います。国でのことなので直接TPPは反対などできないと思いますが、そういうことに無関心であるより関心がある方が良く思います。どうも、ありがとうございました。

事業リストを見ていると結構色々やっていて、寝屋川市頑張っていると思います。「市役所頑張っている」と言っていたきたい訳ではないですが、市民の方が今回初めて見て、あるいは他の方が初めて見て、「ここは良い」と、「ここは課題だ」ということがもしあれば

教えていただきたいと思います。

安全に関する活動が抜けているのではないかということは、一つの指摘だと思います。他にもしあれば、今後の課題として、市の方ももっと考えていかないとはいけません。「ここは良いからもっと続けて」というものがあれば、お願いいたします。いかがでしょうか。

(藤尾委員)

寝屋川の広報で食育推進会議の市民公募委員募集の記事が昨年ありまして、応募しました。これまでは、食育の法律があることを知りませんでした。今日資料も見せていただいて、多岐に渡る活動をされている認識を新たに知りました。大多数の人は、あまり知らないのではないかと思います。食育で寝屋川市が頑張っている姿を皆に知っていただくことが大切だと思います。このことが食の安全、安心が良くなる方向になると思えました。

(内藤会長)

ありがとうございます。大切なご指摘だったと思います。食育の大事さ、意味を幅広く市民の方に理解していただくことが、まだまだ課題としてあると思います。せっかく良いことをしても知らなかったら意味がないということですので、そういう意味で今後の課題だと思います。

だんだん高齢になるにつれて健康意識が高くなり、よく歩いたり食事に気を付けたりしますが、若い層はまだまだ課題がありますので、食育推進の課題かなと思います。市民全体に浸透するように工夫、アイデアを言っていただければと思います。ありがとうございます。

他に御意見・御質問などございませんか。よろしいでしょうか。今後とも色々御提案いただければと思います。こういう会議がもちろん基本ですけど、それ以外のところでも御意見いただければと思っております。それでは、次の方へ入らせていただきたいと思えます。

次第4「第2次寝屋川市食育推進計画の中間評価について」事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料3を御参照ください。「第2次寝屋川市食育推進計画中間評価について」の1枚の紙と2枚アンケートがついてございます。今年度が、第2次食育推進計画の計画期

間の中間年に当たります。後ろについておりますアンケートにつきましては、健康推進室が食育PRの際に行っているアンケートとなっております。中間評価につきましては、平成29年2月上旬に予定しております第26回寝屋川市食育推進会議にて、お伝えする予定となっております。

中間評価の御説明として、食のアンケートは、食育推進計画を策定する際に行った市民アンケートと同様の内容のアンケートとなっております。

昨年度、エコフェスタという市の農業まつりの方でアンケートを配布し、結果を周知したところでございますが、20代30代の回答が少なかったということで、今年度9月1日～9月30日までの間、寝屋川市内の公立保育所6所に、このアンケートを各世帯2枚ずつ配布して、今アンケートの回答を依頼しているところでございます。

27年度に実施したアンケートと今年度実施中のアンケート、エコフェスタが11月20日（日）に打上治水緑地で開催される予定となっておりますので、そこでもまたアンケートを実施する予定でございます。アンケートの結果等を基に食育の中間評価を行う予定となっております。中間評価の結果といたしましては、先ほど申し上げた平成29年2月上旬に開催される第26回寝屋川市食育推進会議にて報告する予定となっております。以上です。

（内藤委員）

どうもありがとうございました。ただいまの説明に対して、御意見・御質問ありましたら受けつけます。

（藤尾委員）

寝屋川市の所帯数は、どのくらいあるのでしょうか。人口約20万人位でしょうか。寝屋川市の人口でいえば、何人に1人の割合でアンケートを実施しているのでしょうか。数字がもし分かれば、教えてほしいです。

（事務局）

世帯数は、約11万世帯ほどになっております。第2次寝屋川市食育推進計画の策定時につきましては、お配りしています食育推進計画の3ページに載っておりますが、計画策定の際は、アンケートを市民の無作為抽出で2,000部配布いたしました。以上でございます。

(内藤会長)

当初ですね。これに対応する中間評価では同じ無作為抽出はやらないのですか。本当は、比較しようと思うと同じスタイルでやった方が良いのですが。最終評価で行うということですが。

(事務局)

予算の都合上、2,000部の郵送のアンケートになりますので、予算を確保はできていない状態です。今のところ無作為抽出の実施は、考えておりません。次の計画の策定にあたって、同様のアンケートは行いますので、その際の最終評価及び次年度の問題把握のために無作為抽出のアンケートは行う予定になっております。

(内藤会長)

エコフェスタとか市のイベントに参加される方は、おおむね意識が高い人が多いので、良い結果が出るのがだいたい予想される。安心していたら、10年後に同じようなアンケートを行ったら、かえって悪くなっていたとなりかけないので、そのあたりの解釈、余裕があれば同じような無作為抽出を行うことは望ましいことは望ましい。

もう一つは、長期に計画を行っていく際に、最初の問題点と今の問題点が変わってくる可能性があるので、中間の時点で新しい問題点を導入する。早めに問題を把握することも余裕があればチャレンジしていただきたいと思います。他の自治体で行っている所もあるのですが、それぞれ自治体によって実情がありますので、理想的な評価と現実的な評価が必ずしも一致しない場合がありますので、そのへんは、仕方ないかなと思います。解釈する時に、「エコフェスタで良かって安心安心」という風に必ずしもならないように評価をしていただきたいと思います。他に御意見・御質問ございませんでしょうか。

(藤尾委員)

食育推進計画の3ページに配布数2,000部、人口は約20万人、予算の関係も言われましたが、2,000部は実情を掴むために少ないと思います。もう少し増やさないといけないと思いました。寝屋川市政に最近関心を持っていますが、北川市長に代わって、「市民の声を聞く」という方法で市政を運営するということで、食の問題というのは毎日生きていくためには大切なことで、実情を掴むために5000から1万に今後増やした方が思います。実態を知

っておかないと食の発展、計画が経ちにくいのではないかと思います。これとは直接関係はありませんが、例えば、新聞紙上等で小学生・学生が朝食を食べることができない、朝食を抜きで登校しているという話も聞きまして、我々の会議でどのように関わっていけばいいのか。

(内藤会長)

人数が多い方が良いのは確かなのですけれど、それだけ経費がかかるということ、もう一つの程度の変化を見たいかどうか、良くなったか悪くなったかを見たいかによって、数が変わってきます。統計的な差があるかどうかを結果的にみたいので、大きな変化を期待するのであれば2,000でも十分かもしれません。国の調査でも、だいたい1億人で1万人くらいの調査が多いですから、同じ問題がどこにでもあるわけです。どの程度の問題を知りたいかによって数が変わってきます。

これは、成人に向けてですけれども、学校の場合はだいたい全員数調査ですよ。ある程度、朝食を食べているか把握されていますよね。ですから、子どもの中での実態は今の現実的な今の状態が分かるので、そこで改善していれば、おそらく他の成人でも同じ家族と考えていくと改善していつていると思います。単身世帯は分かりませんが、若い単身の働いている人の朝食をとっていない人もいますので、そのへんが問題になりますけど、そこは議論できません。確かにアンケートをしても回収されないと思いますので、別のやり方、アプローチが必要です。実際データがなくても、ある町で言えば、コンビニにどんどん健康的なものを出すようなことをやろうとする町もあれば、長野県であれば健康度が高い、平均寿命も良いです。更に良くするために「若い人が食べるコンビニの食事の良いものにしていこう」これも食育ですよ。それをやりかけています。「環境全体を変えていこう、わざわざデータをとらなくても変えていこう」ということもあります。データは大事ですが、データをとるだけで満足するだけでなく、実際によくするよう環境を変えていく努力をした方がもしかしたら良いのかなと。データ取ることにエネルギーを使うことが本当に正解かどうかということも思ったりします。そのへんも含めて考えていただければと思います。

(安方委員)

3ページの対象者の年齢ですけれど、16歳以上75歳以下となっておりますが、この75歳以下というのは、何か対象を区切られた根拠はあるのでしょうか。

(事務局)

明確な理由を覚えていませんが、前回と同じような形でアンケート抽出していると思います。それが 75 歳以上をしていないという明確な理由を、すみません、資料を今持ち合わせていないので、調べさせていただいてからお答えさせてもらってよろしいでしょうか。

先ほど先生から、2,000 部の数の根拠として統計的な部分でということ、内藤先生からも補足していただきましたが、そういった観点からもアンケート調査をさせてもらっていると思いますので、抽出もそういった年齢層で何らかの根拠があると思うので、お調べさせていただいて、また後日になりますがお返事させていただきたい思います。それでよろしいでしょうか。

(安方)

75 歳以上は良いのかなと。

(内藤会長)

国の健康施策、検診は、後期高齢者とそれまでとで内容が変わったりしています。ある程度、高齢になってくると、予防の効果が実際は出にくくなってきている。一生懸命コレステロールをとれるような食事、あるいは減塩しても、脳卒中が減るかというのも出にくくなってくる。それまでに、体の中で病気ができあがってきていることもあるかと思えます。そういう面では比較的若いところでの生活習慣を変える。食育もそういうところがあると思いますので、反映されているかもしれません。高齢になってくると低栄養、介護予防の観点での食の実態を把握した方が良いと思います。介護予防の観点での運動の仕方、食事の仕方というのが調査されていると思いますので、そちらはそちらで他の形で食の情報が得られていると。こちらの食育の方は、どちらかという健康維持、比較的若い世代、高齢になって病気にならないような、そういう意味での食の問題を把握するので、対象や内容が違っているのかなと個人的に思います。国の対象とかと照らし合わせて確認していただきたいと思います。

(藤尾委員)

新聞を見ていたら、100 歳以上の人が日本で 6 万 5,000 人程度、年代は忘れましたが、2030 年か 2050 年にもっと増える可能性がある。年齢がいったら色々な問題もあるが、そういう人もいれてアンケートをしていただきたい。10 代 20 代もあるけれど、その特徴も分か

れば、アンケートをやる意義もより、深まると思います。

(内藤会長)

そうですね。被っている所もあると思いますので、介護予防、あるいは元気に長生する。「健康寿命の延伸」というところと、食育の「子どもの時からの食の存り方」というところと、「被りつつ重複してもっていない」といったそのへんの整理がうまくできれば良いと。事務局の方で議論していただいたらと思います。

高齢者の問題の中に、食の問題もあれば、運動の問題もあれば、病気の問題、介護の問題と色々な話題がありますので、どう切り分けていくか、全部に踏み込むと結構大変になってくると思いますので、そのへんの調べる範囲をある程度整理していただきたいと思います。

最近、健康管理もあります。医療と福祉、地域包括ということで、地域全体で医療だけではなくて、いい人生を送れるような方向性を示されているので、そういう意味での事業の調査の仕方、事業の整理を今後必要となってくるので、健康部で議論していただければと思います。まだ手さぐりのところもありますので、御意見いただきながら、市で考えていただければと思います。よろしいでしょうか。他に御意見ありますか。

中間評価に関しては、最終評価がまだあるわけですね。中間は同じレベルで詳しくやれるほどの予算はとってないけれど、それなりに現状を見ておきたいという考えですね。理想的なところは同じようにできれば良いですけど、現実的なところで何か得るものをこの中間でやっていきたいということで考えているということでもよろしいですね。なにか工夫や色々な改善案がありましたら、是非お願いしたいと思います。

(沢井委員)

初めてなので、大変ぶしつけな質問するかもしれませんが、数値目標値というものがありますよね。我々、寝屋川のことしか知らないですけど、当然アンケートの抽出方法は全部違うと思います。「全国平均ってどれくらいだろう。」とそのようなことを知ったことによって、寝屋川が「満足するのではなく頑張ろう」とするのか、それとも「もっと頑張らないといけないのか」と比較対象が出る2月の中間評価が出る時に出示していただければと。アンケートの仕方、書き方によって数字が変わってくると思うのですが、一緒のものがあれば全国平均や大阪府平均などを出していただければ良い参考になるかと思いますが、是非お願いしたいです。

(内藤会長)

大変貴重な御意見ありがとうございます。評価していく上で寝屋川が「良くなった良くなった」といって喜んでいたら、実は全国ではもっと良くなっていたと、「相対的には良くなっていない」ということになりますので、是非大阪府の平均がどうなっているのか、できれば国も含めて寝屋川はどのような変化をしているのか、どのような位置なのか、出ていませんので、今後提示していくように。本来準備されていると思いますが、このような会議で提示していただいて、頑張っているなどわかるようにしていただきたいと思います。

(事務局)

アンケート結果の目標値等の比較対象の数値につきましては国、大阪府等の計画で、同様の項目が示されているか、示されている場合は、事務局の方で数字を収集して提示してまいりたいと思っています。

(内藤委員)

ありがとうございます。年齢構成が違う場合がありますので、年齢を調整したような形で、評価できるようになっていますので、やっていただければと思います。

(ダニエル委員)

評価の方法なのですが、私は保健指導も関わっておりまして、健保組合さんとかは保健指導をすることによって医療費が下がったとかという評価が一番ですが、食育とか健康食育に関しては、そのような評価ではないかと思います。ただただやみくもに少しのデータで比べるのではなく医療費がどのように動いているかということに着眼したり、他のスポーツ関係などと関わり合って、縦割りではなく。

前回、ノルディックウォークの学会に行ってきたのですが、ノルディックウォークというのは全体のエネルギーは使うけれど、足に負担がないのでということで、高齢者の方とかにとっても良いということで評価されていました。それを実施した地域がありまして、そこでは健康度がすごく上がったり、参加することによってポイントをあげて、地域の商品券を渡したりとかそういったことをされていました。大きく地域で絡み合って、ただただ食育だけということだけでなくスポーツに絡めたり、農業に絡めたりできたら、そういったことをしていただいたら良いかなと考えております。

もう一つお伝えしたいのが、私は時々小学校に行ったりとかしますが、今の話とは外れませんが、小学校で食育ということでトマト、ミニトマト、ピーマン、ゴーヤとか植えています。すごく実がなっているけど知らんぷり、それを食べ物として扱っているような感じを受けないのです。たくさんトマトが重たく下に垂れ下がって地面について腐っているといった状況が気になるので、先生に「食育だったらもう少し紐をかけてするとどうでしょう。私がしてもいいですが、どうでしょう。」とお伝えしたら、「それは4年生の畑なので」という感じのお答えで、その姿を子ども達が見ているというのはすごく気になりまして、食育というのは、「ただ植えてトマトが真っ赤になって捨てておしまい」という訳ではない。最終的にトマトは切って全部処理をされていまして、その処理というのはせっかくの教育の場なのに、食育につながらないかなと思います。連携はとても大切だと思います。

(内藤委員)

はい。色々ありがとうございます。最終的に医療費、脳卒中の死亡とかの食育の効果が見られていけばいいですけど、なかなかこれをやるのは難しい。その因果関係を立証するのは難しいので、他の会議などで議論を考えていただきたい。食育は、「食が望ましい、こういう食事のとり方、こういうところを増やしていけば良い」とある程度分かっているところがありますので、いかに広げていくかというところを主たる目標にしても良いのかなと。目標を絞って、トータルに医療費まで、あるいは健康寿命までもっていければ良いと思います。欲張りすぎではないかと個人的には思いますので、今やっている朝食を食べたり、バランスとか意識する人が増えていくことを、データで示していければと思います。

データで示すために活動をもっともっと強化していかないといけないので、食の大事さ、トマトやゴーヤ、料理も寝屋川はされていたと思います。最初、寝屋川に来たとき、ゴーヤで自然の冷房ではないけれど冷却効果があるのか、料理をしたり、お弁当を作ったり、そのような活動が非常に活発的なところだと思いましたので、もし少しテコ入れが必要であればやっていただければと、個人的に思います。非常に先進的にされていると思います。是非学校から更には青年期、そして壮年期、そして高齢期というところまで、食べ物の文化が違うというところで、議論を進めていければと思います。皆さんで共感してやっていただければと思っています。次の話題に入らせていただきます。よろしいでしょうか。

次第5「今年度のスケジュールについて」事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

資料4の【寢屋川市推進体系図】の下の方を御参照ください。

今年度、第1回の部会会議につきましては、10月から11月頃、食育推進関係機関会議は、10月7日(金)午後2時から、第2回の部会会議は平成29年1月頃の開催予定となっております。各部会の開催につきましては、部会委員の日程調整後、部会長と調整させていただきまして、改めて各委員に御連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、今年度の食育推進講座の予定を報告させていただきます。豪栄道関にも御参加いただく予定となっておりますが、今年度は平成29年3月2日(木)の予定となっております。内容につきましては、現在検討中のため、後日後報告させていただきます。以上です。

(内藤委員)

どうも、ありがとうございました。豪栄道関の出演は、優勝したことによって変わることはありますか。

(事務局)

現状で、このようになっております。場所前に後援会を通じて御本人に確認させていただきました。

(内藤会長)

スケジュールに関して、御意見・御質問はないですか。よろしいでしょうか。食育推進講座まで、来年のことなのでまだ時間があるかと思いますが、是非食育を盛り立てる意味で、また内容を検討していただけたらと思います。

時間の予定はもう少しあります。その他について何かありましたら、よろしくお願いいたします。せっかくの機会ですので、御意見、まだおっしゃっていない方がいらっしゃったら、一言感想や参加してみてもの御意見がありましたら、よろしくお願いいたします。事務局からその他がありましたら、どうぞ。

(事務局)

実績と今後の食育の啓発活動の一つとして、今年度9月10日(土)に敬老式典で皆様に

もお配りしました、食育のお弁当箱バランスのクリアファイルを配布いたしました。11月20日（日）に予定されていますエコフェスタ及び来年の成人式等で、クリアファイルを配布いたしまして、お弁当箱バランスの周知活動を行う予定となっております。委員の皆様におかれましては、御都合がよろしければ、是非お立ち寄りいただければと思います。

（内藤委員）

クリアファイル、ランチョンマット、イベントに関して何か御意見ありますか。

（安方委員）

前回の会議の時に古川委員から提案されたことが反映されていて見て嬉しかったです。ランチョンマットの主菜のところなのですけれど、鮭のホイル焼きが分かりにくくて、キノコが目立っていて分かりにくかったが、改善されていました。大豆製品、卵、肉、魚の4品、牛乳もあるし、バッチリでした。

ランチョンマットは、このままですか。

（事務局）

機構改革で課・室の名前は変更しましたが、絵の上に貼るのはしていません。

（内藤委員）

ランチョンマットの認知度はどうですか。

（事務局）

ランチョンマットを2年間作らせていただきましたが、枚数的に3,000枚くらいなので、学校の方には各小学校のランチルームに置かせていただきまして、個人で持つというのではなく、これをランチルームに置いていて、給食でランチルームを使う時に子ども達に見てもらって、給食の時に学んでもらうということを見せていただいています。それ以外、数をそこまでたくさん配布していないので、イベント等でお渡しはさせていただいておりますので、はっきりと数は分かりませんが、お弁当箱バランスということと言うと少しずつと。

昨年の食育推進会議で委員さんの方から、なかなか高齢者にお弁当箱バランスの情報というのが入っていないし、なかなか低栄養で食の改善が難しいということもありまして、今回

6,000枚このクリアファイルを作成できましたので、先ほど申し上げたように、敬老式典でお配りをさせていただいたり、各種教室、検診、イベント等ですね。昨年のここの会議の時に20歳の成人式の時にパンフレットばかりいただいていて、なかなか子どもが実になるものが少ないという御意見も頂いたので、今年度は来年の成人式の時にこのクリアファイルを入れさせていただいて20歳の若い方たちにもお弁当箱バランスの周知をしていきたいという風に考えています。

今度、クリアファイルであれば身近に持っているということと、格安で大量に作れるということがありますので、以前のランチョンマットより、より多く周知ができるかと思っています。今年度、このクリアファイルをイベント等で配らせさせていただいて、また市民の声を聞きながら、今後の啓発にどのようにいかしていくかというのは考えていきたいと思っております。

(内藤委員)

はい。ありがとうございます。この栄養バランスというのは、メタボとかそういうところでなんとなく、皆さん肥満予防などで意識すると思いますが、最近ロコモティブシンドローム、あるいはサルコペイン、筋肉が萎縮している、弱い、虚弱、体が弱っている人が大半ですけれども、それに対して、今までは「運動しましょう」と年齢を重ねても筋トレが勧められて運動ばかりしている人がいますが、実は食事をちゃんととらないと筋肉が増えてこないということがあります。高齢者の話もありましたが、ちゃんとした食事をとらないと筋肉もつかずに、そして要介護に近づいてきますので、そういう面では食事の大事さというのは世代を超えて意識されるといいと思います。

もう一つの話題として、若い世代、私、女子大で教えていますが、女子大生も結構筋肉が少ない。隠れ肥満ではなく、隠れ筋萎縮、皆ちゃんとした食事を取らずにお菓子ばかり食べていて、筋肉が細くなってきているということです。食事、食育とは非常にジェネレーションを超えて大事だと思います。こういう一つの媒体となると非常に有意義になると思いますので、是非寝屋川初の媒体、豪栄道に負けないように目立って寝屋川発信していただけたらいいかなと思います。頑張ってください。色々と新しい話題がありましたが、全体を通してコメント、御意見ございませんでしょうか。事務局それだけです。

(藤尾委員)

寝屋川市食育推進会議に出席させていただいて、2ページのところに国と大阪府の計画がありますね。内容、概要おおまかな特徴をまとめた文章などありますか。

(坪井委員)

大阪府の方も同じように計画を立てております。国がまず計画を立てていまして、その後大阪府を立てて、そして寝屋川市さんが立てられているという順番になっています。大阪府の方も最終評価の年になっています。第3次の大阪府の食育推進計画をこれから立てていこうとしています。冊子のまとめは、順次作っているというところです。

次回、お持ちさせていただいてよろしいでしょうか。

(内藤委員)

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(坪井委員)

大阪版健康栄養調査というのを昨年11月から12月にかけてとりまして、今年のお盆あたりに主食の重ね食べ、炭水化物の重ね食べということで、大阪府民は「お好み焼きとご飯とかうどんとご飯」というような特徴的な食べ方をしているということで、マスコミ等で報道されたかと思いますが、昨年はそれだけの調査だけでなく、食の意識であったり、どんな物をどれくらい食べているかというのを調査させていただいて結果を今まとめているところで、先にそれが先行してマスコミの方が取り上げられましたので、特徴的な結果が出たということで出させていただきました。速報版を今日お持ちさせていただきました。今日、お持ちしたのは速報値で出ている分で特徴的なところということで、先ほども言っていただきましたが、朝食を食べていない世代が多いと。ただ、今回の調査は18歳以上ということで、若年者、また働く世代がどのような食事状況なのかということの結果に出しております。今、お配りした資料を見ていただいても分かりますように、高校卒業してからの18歳から20代後半にかけて、朝食摂食率が非常に低く、男性で約5割、女性で6割と下がっているとのことで、ここに書かせていただいています。高校生の調査も合わせてこの時にさせていただいたのですけども、なかなか最近自炊ができる子ども達が減っているということで、「弁当を一人で作ることができる」といった割合もここに出させていただきます。「なかなか作ることができない」と回答している生徒さんが多いです。また、3番目に出させて

いただいておりますのが、先ほど言いました、主食の重ね食べということで、「うどんとかやくご飯、ラーメンとチャーハン、お好み焼きとご飯」というような、それがどうかということなのですが、「重ね食べの頻度が高い人ほど肥満である」というような結果が出たということも報道で提供させていただいております。最後のページが高齢になってタンパク質の不足気味の方がいらっしゃるということで、高齢者になってもタンパク質の方は十分に摂っていただきたいということで、今回おおまかに4点ほど出させていただきました。なかなか国の調査に準じて大阪府の方もこれまで食育の調査というのをさせていただいたのですけれども、大阪府に特化したということで、今回、炭水化物の重ね食べのあたりを聞かせていただいた項目を作らせていただきました。このような結果が出たということで、速報値にはなりますが、今回、お配りさせていただきました。まだ、全部の結果が出ましたら、この会議の時間でもお時間いただきまして、アンケート用紙も合わせて、次回今年度中には御報告させていただきたいと思っております。

(内藤委員)

非常に貴重な資料をありがとうございます。行政で考えている計画の概要を説明するのではなく、現在の問題点として科学的根拠に基づくデータとして提示していただくと勉強になりますし、また今の問題点が分かります。今後もこのような形で話題提供がありましたら、是非よろしく願いいたします。他に御意見ないでしょうか。

私の方で御指名させていただきます。健康管理とは非常に大切な役割を担っていると思っておりますが、初めて今回参加されて突然で申し訳ないですが、医師会の榎田先生、この会議の雰囲気、食に対する課題、日頃から考えていることがありましたら、教えていただきたいと思っております。

(榎田委員)

食と病気というのは、非常に密接な関係があるわけですが、医師会としましては、今までこの事業リストにありますように、検診に協力させていただいたり、乳幼児の健診、骨粗しょう症検診、年に1回健康長生塾というのを行ってございまして、その中で食について試食会という講義を1つ設けています。自分が食べている物の中身を知ってもらう。カロリー、タンパク質、どういう成分なのかを知ってもらうというコーナーを設けていますが、そのへんを重点的に食と病気という形で講義できるような場ができればと思っております。また、参考に

したいと思います。ありがとうございました。

(内藤委員)

ありがとうございます。病気の方の中でどういう食事をされているか、現場での経験の中で、「寝屋川の人はこちらの人が多いよ」という実感を持っておられると思いますので、是非そのような観点で色々と御発言していただければと思います。どうもありがとうございました。

(楢本委員)

歯科の方の立場から言わせていただきますと、美味しく食べるためには歯とお口が健康でないといけない。しっかり噛むことができなければ食べるものも制限されてきて、栄養が偏ってしまうことがありますので、そういった意味で、歯とお口の健康の維持・推進にも協力していきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(内藤委員)

はい。どうもありがとうございます。せっかくの機会ですので、初めて出席され方で、「こう感じた」「今後どう関わっていければ」という御意見があれば一言お願いいたします。

(名取委員)

今日初めて参加させていただきまして、色々な情報を御提供していただき頭の中がいっぱいで、まだ整理がつかない状態です。私は、高齢期部会にこの度所属をさせていただきます。非常に今高齢化が進んでおりまして、国勢調査によりますと人口の65歳以上が27%以上となっておりまして、これからますますその割合は増えてくると思います。私どもの老人会の方でも1万人の会員がおりまして、80歳から90歳までの方が約半数以上います。私どもでは、75歳までは若手といいます。後期高齢者以上は若手と呼ばれませんが、非常に高齢化が進んでおります。やはり、先ほど先生方からもおっしゃられているように、食事は非常に大事で、食育については今日私も改めて知ったわけですが、老人会でもできるだけ高齢者向けに食育の計画を立てて、推進していきたいなと思った次第です。以上です。

(内藤委員)

ありがとうございます。

(溝口委員)

初めて参加して、お話聞かせていただきましたけれど、難しいですね。

寝屋川市農業研究クラブは、地場産野菜を学校給食に供給させてもらっています。評価が良い時も悪い時もありますが、これからはますます努力して、地場産野菜を学校給食に供給させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(沢井委員)

食事するのは、お腹が減ったからとか美味しいものを食べたいからという位のレベルとしか今までなかったのですが、今日は色々と勉強させていただきました。

逆に一つだけ行政に質問させていただいてよろしいでしょうか。今回、ここの名称を健康部という名称に変わられたと思うのですが、ただ単に組織改革だから名前が変わったということだけでなく、やはり市として大きな方針があって名前が変わったのであろうと思っておりますが、そのあたりはどうなのでしょう。市川部長も来られておりますので、よろしく願いいたします。

(市川理事兼健康部長)

ありがとうございます。健康部は、市長の「命を守る」ということで、「市民の皆様方の命・健康を守る」ということを公約とされておられました。その中で組織改革がございまして、当たり前のことなのかもしれないのですが、市民の皆様方の「安全・安心を守る」というのは、やはり健康あってのことだと我々も認識しております。そのような中で健康部というものができました。この先さらに、寝屋川市は中核市というのを目指してございまして、一番身近なもので言いますと、保健所、今は大阪府寝屋川保健所でございますが、これが寝屋川市の保健所ということになり、移管されるということもございまして。市民の皆様方からすると行政のサービスとしてはそんなに変わらないかもしれませんが、我々は、健康という切り口の中で、保健所をお預かりするといえますか、寝屋川市として保健所を担っていくという、非常に強い気持ちで今後の健康行政を推進していきます。

保健所は特に衛生部門がありますので、安全・安心に非常に関わってくる部門でござい

す。そういう所も含めまして、更に職員の質の向上、市民サービスの質の向上というものを図ってまいります。その最前線にいるところが健康部であるということで、これからは健康だからといって健康行政だけではございません、横串にさしていくような形を、非常に意識しながら進めていきたいと思っております。食育はもちろんでございますけれど、健康全般、三師会の皆様方も含めまして是非とも御協力いただきたいとともに、皆様方の御理解・御協力、是非ともよろしくお願ひしたいと思っております。健康部はなみなみならぬ意欲を持って、職員一同頑張っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(内藤会長)

ありがとうございます。

(日下委員)

私、子どもが小学生と中学生が一人ずついまして、数年前に上の子どもが小学生の時に「弁当を自分達で作る。買い物も全部自分達ですて」という、弁当の日という年に2回させてもらっていて、「子ども達は今作ることができない」「物の大切さを知らない」ということで、今は校長先生も変わってやってないですが、そのように寝屋川市で弁当を作るとか、何かそういう機会をさせてあげると、もっと食の大切さを知ると思うので、そういう話もできたらと良いなと思っております。今日はありがとうございます。

(古川委員)

何年かさせてもらっているのですが、いつも思いますが、食に関して、何に関してもそうですが、意識の高い人は、ほっておいてもどんどん色々な情報を吸収していくと思うのですね。でも、食育推進会議を立ち上げておられて、食に興味のない人は、「安かったら何でも良い」「その辺にある物を買ってきて食べられたらいい」という、なかなか意識を目覚めない人をどうやって、「食の安全・安心」に興味を持ってもらって、意識を高めてもらうかということ、そのような形で持っていけたら良いとつくづく思います。

それと、今年の食育推進講座には、すさみの販売と重なりまして行けなかったですが、行ってもらった人の感想で、映像が暗くて残念だったという話をお聞きしました。自分が出席していなかったのになんとも言えませんが、そのへんを改善してもらえればと思います。

(藤尾委員)

初めてで聞きたいこと、知りたいことが色々ありますが、今後アンケートをされていくということで、このような項目で100%良かったのかと。「このようなアンケートで良いのか」と委員の意見も聞いてほしいと思いました。お話の中で、寝屋川市は中核市になると、市議会でも協議をするということで、中核市になると文化性、都市核、その点で、大阪の都市核というのは全国的に比べたら低い、文化がなかなか育たないという話も聞きました。文化の問題、食文化もあると思います。プラスチックのお皿だけでなく、陶器のお皿を見て、「食事を美味しく感じる」「食欲を感じる」という、食文化の違う点でも論議になったら良いなと思いました。

今日、私初めて参加させていただいて、色々な御意見聞かせていただいて、大変勉強になりました。私も配布された資料をきちんと読んでいきたいと思います。

(内藤委員)

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(事務局)

アンケートについて、補足で御説明させていただきます。アンケートの内容について、委員に意見を図ってはという御意見がございましたけれど、会長も少しおっしゃっていただいたのですが、各経年の変化を見るために、この食育のアンケートにつきましては、第1次食育推進計画を策定時に実施したアンケートと同内容の物を引き続き行っていく、年を経た変化をみるために、アンケートの内容につきましては今回さわっておりません。アンケートを策定する際に、第1次食育推進計画を策定する際の食育推進会議においてアンケートの内容については十分に議論していただいて、決めたものでございます。以上でございます。

(内藤委員)

ありがとうございます。経年変化を見ていく上では、同じ質問をしていかない仕方ないですが、一方では新しい話題、これ聞いてみたいなものがあると思います。あまり欲張ると書く人の負担になって、回収率が良くない場合もありますので、そのへんは現実的な判断をして、必要なものはこの会議において図って、多数決かどうなるのか分かりませんが、そのような形で新しい質問も入れていくという体制も維持した方が良いと個人的には思っ

ております。そのようなことで御理解いただければと思います。まずは、「決めたことに関してきっちりやる」ということと、「新たな課題に関して新しい改善をしていく」というやり方で、最近話題のPDCAサイクル、改善がないと意味がないですので、そういう形で進めていければと思います。

今日は時間がございましたので、皆さんに御意見をいただきましたけれど、部会の方で、ざっくばらんでも良いと思いますが、議論、いわゆるグレンストーン、あまり批判なしにとにかく意見を出し合っただんだん収束させて、皆が同意できるような案を作っていく。部会で作っていただいて、それをまたこの食育推進会議で提案いただきたいと更に改善していく形で。こういう形で進めていければ良いものができると思います。是非今日は限られた時間で、十分な議論はできなかったと思いますが、是非部会において、良い意見をまとめたいただければと思っております。他に、御意見ありますか。

(藤尾委員)

簡単な議事録など作っていただければと思います。

(内藤委員)

はい。議事録は作っています。

一緒に議論し合っただいものを作っていく。そういう考えでこの会議を進めていければと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。そろそろ終わりにしたいと思ひます。

事務局からの連絡があればお願ひします。

(事務局)

次回の推進会議は、平成29年2月頃を予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

(内藤会長)

どうもありがとうございました。